

第1回策定会議及び委員アンケートでの主な意見について

～ 委員から寄せられた主な意見 ～

構想全体に関する意見

- ・富士市の特徴を活かすこと、そして現在課題となっていることを明確にしていくことが望ましい。(磯貝委員)
- ・何のための構想なのか、いつのための構想なのか、誰のための構想なのか、どのような構想なのかを明確にする必要がある。(影山委員)
- ・CNFの産業が豊かになることで、富士市や富士市民にとって、どのような波及効果があるのかを明らかにできると良い。(小島委員)
- ・CNFを富士市の一般的な人にも広く周知、CNFの使う人の目線に立った対比的な情報が必要(小島委員)
- ・富士市に来ると何か良いことがあるという目に見える求心力が必要(渡邊委員)
- ・富士市がリーダーとなり、モデルケース、ケースステディとしてCNFの可能性を引き出し、全国に広めていく必要がある。(影山委員)

産学官各々の立場からの意見

- ・CNFのわかりやすい情報が手に入りづらい。使う人の目線に立ったわかりやすい情報があると、CNFに対する取組やすさも違ってくる。業界業種によって検討しなければならない性能指標があるので、様々な業界での必要特性を調査し、検討に値するかどうかの判断材料として提示できることができれば良いと思う。(小島委員)
- ・サンプルが手に入りづらい(サンプル入手の制限など)ため、企業が自由にCNFサンプルを入手できるような仕組みを富士市で作る必要があるのではないかと。例として、富士市や工業技術支援センターが仲立ちする方法や提供可能なサンプルの具体的な紹介や問い合わせ先などを市役所のホームページに掲載するなどが考えられる。(磯貝委員・松島委員・片山委員・河崎委員)
- ・現状はサンプル価格が高価であり、価格の不明確、量産体制も確立されてないとなると、素材としてCNFを活用するのは二の次になるため、ある程度工業的に確立された素材になり、価格なども明確になると良い。(松島委員)
- ・CNF製造コストが高いので、いかに安価に製造するかを研究開発する必要がある。官学には技術的支援、資金的支援等を期待したい。また、CNFを作る特殊な機械があると違う。(河崎委員)
- ・CNFが扱いつらく、思うような効果がすぐに得られないため、大学などの発表や技術的支援があると良い。(片山委員)

産学官各々の立場からの意見

- ・富士市や静岡県がどのようなリーダーシップ(もしくはコーディネート)ができるのか、目に見える形を提案いただけることを期待したい。(松島委員)
- ・取組を進めていくうえでは、製品開発とビジネスマッチングが重要であり、アンケート調査の発展として、企業の日利きや、企業同士のマッチングの可能性が出てくると良い。(松下委員)
- ・CNFを製造する上で、CNFを担っていく人が集まりにくいいため、CNFを担える人が集まりやすい仕組みを考えて欲しい。(河崎委員)
- ・CNFを支える人材がいなければ、中長期的な発展は厳しいため、静岡大学のオフサイトキャンパスを富士工業技術センターの中に作り、そこで教育も、地元企業との共同研究もできるような仕組みを作り、人を育てていく。(渡邊委員)
- ・富士市のみで全てを解決するのは厳しいため、他の先進地域(近畿、四国等)とパートナーシップを組み、うまく連携し、外のノウハウ、知恵、人材を巻き込んでいくことが重要。(渡邊委員)

産学官連携の推進体制等についての意見

- ・オープンイノベーションの仕組みづくりが必要(渡邊委員・松下委員)
- ・企業の持つ優れたデータを、テーマ(例:PPのマスターバッチの開発等)ごとに、「この指とまれ形式」で研究を進める。研究開発には、CNF製造企業、技術・技能を有する中小企業、富士市、工業技術支援センター、静岡大学等が参加する。(松下委員)
- ・静岡大学のオフサイトキャンパスを富士工業技術センターの中に作り、そこで教育も、地元企業との共同研究もできるような仕組みを作り、人を育てていく。(渡邊委員)
- ・民活型で日本中の関連産業の誘致をこの地域に進める仕組みが作れないか。遊休設備が沢山あるので、オープンスペースエリアにサンプルを使って共同研究的な活動をする企業を民活型で誘致をするなど(渡邊委員)



～ 推進構想策定にあたっての視点と本日の論点の整理 ～

- 1 富士市・富士市民にとってCNFがもたらす効果の明確化
- 2 容易にCNFサンプル入手できる仕組みづくり
- 3 富士市や静岡県のリーダーシップと他の先進地域との連携
- 4 オープンイノベーションの仕組みづくり
- 5 静岡大学・富士工業技術支援センター・地元企業との共同研究の場づくり